

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 自然環境観察会

27A-11

代表者：代表理事 平井 一男

URL : <https://nature-garden-walk.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた概要

都市近郊の大宮台地北部に『いやしの生物』の回復を目指し、農地や庭の隅に生態補償地「緑のオアシス」を設け、昆虫、クモ類、鳥類などを観察した。以上の成果に基づき広報、自然観察会、ワークショップを実施した。

2. 活動の内容（調査・保全および環境学習の実施時期、活動内容など）

(1) 定例観察会：各地の緑のオアシス（3～12月）で、昆虫、クモ類、鳥類の観察と保全を行った。

(2) 生息地管理と環境学習、研究会など（参加者多数）

緑のオアシス冬の管理、春の子ども自然観察会（3月）、上尾文化センター親子自然観察会・鱗粉転写（5月）、市主催環境パネル展（10月、11月）、国連大学地域市民フォーラムなどに積極的に参加し、成果の発表および環境学習を支援した。埼玉未来大学の講義とフィールドワークを応諾した（9月、10月）。



3月 親子自然観察会 5月 親子自然観察・鱗粉転写 6月 オアシス観察会 9月 埼玉未来大学実習

3. 活動の成果

(1) 前年同様上尾と桶川の2か所の生態補償地に寄主植物、蜜源を植えて観察した。桶川（農村）ではジャコウアゲハ等が定着した。



10月 環境パネル展 11月 環境パネル展

(2) 都市と農村の『緑のオアシス』の2020年～2024年の4年間の観察で全13目331種の昆虫、クモ類を記載した。全10目126種（全種数の38%）が保全候補に選定された。

これらの優占種について保全活動を継続する。

(3) 成果は上記HPおよび、研究会、今年度発行した広報誌-19、20、21で公表した。

4. 今後に残された課題

(1) 緑のオアシスの肥培管理、除草、餌・蜜源・隠れ場用植物の植栽を続け、機能的生物多様性を安定させる。

(2) 各オアシスの生き物調査を続け、データベース化およびその公開、環境学習を継続する。